

## 東海キリスト者災害ネット総会 代表挨拶

2018年6月に東海キリスト者災害ネットの創立総会を開催してから、早や2年が経過しました。その間、総会の他に年間2回ほど全体会議を持ち、ゲストをお招きして講演を承ったり、災害支援の現場から有益貴重なレポートをしていただくこともできました。東海キリスト者災害ネット自体が働きらしい働きをしていないにしても、災害ネットに連なるお互いが意義ある交わりを少しばかりゆるされたという思いをもっております。わたしの挨拶の中で3点のことを述べさせていただきます。

その1——日本基督教団中部教区愛知西地区、ペンテコステ・フェローシップ、東海福音フェローシップの3者の中で、窓口となってくださっていた3人のうち、鎌田在弥牧師が2020年春に退任されて草地大作牧師と交代されました。鎌田在弥牧師は、災害ネットの会合が開かれる度に忠実に顔を見せられ、責任を果されました。それだけに彼がこの地を去られたことに寂しさを覚えています。が、草地大作牧師が立てられて勇気百倍という気持ちがあります。すなわち人事は変わっても働きは円滑に続けられています。東海福音フェローシップの石川正牧師が羽鳥頼和牧師に代わったことも同じです。

その2——コロナウイルスによる感染症の大流行で、わたしたち東海キリスト者災害ネットの存在と働きも、大きく予定が変更されました。災害ネット構成員1人ひとりの奉仕や仕事も大きく変容したと思われまます。牧師職にある方は教会の一切の働きが激変しています。石橋憲兄のような信徒の方々は携わっておられる仕事の業績に変化が生じてその苦労が読み取れるのです。すなわちコロナ禍のゆえに災害ネットの働きが直接・間接に影響を受けざるを得なかった中にも、主なる神の顧みによって、どうにか保たれたことを感謝しないわけにはまいりません。

その3——災害ネット代表をしているわたし自身にも身辺に変化がもたらされました。2020年3月に所属教団の75才定年規定により引退牧師となり、43年間仕えてきた日本イエス・キリスト教団名古屋教会を辞めました。この地で生活する予定で中古マンションを購入したものの、所属教団の牧師不足のために兵庫県下28教会のひとつ尼崎市内の教会で担任牧師として遣わされました。持ち物のほとんどを処分して尼崎に転居し奉仕がはじまっています。そのために東海キリスト者災害ネットの働きを、阪神・淡路大地震を経験した地から見るとという視野が広がりました。

終りに——もうひと言付け加えるとするならば、東海キリスト者災害ネットは、1951年発足の名古屋キリスト教協議会（現議長・鈴木直哉牧師）という超教派の交わりがあったがために、信仰的性格に特色ある3者が寄り添い、歩み寄り、協力し合うことができました。それも、自然災害が発生したその時に、情報共有をすることで合意しているわけです。

発足2年後の今、考えさせられていることは、災害が発生しなくても、よりよく信頼感を強めていくことができそうな副産物を生み出している気がします。謎めいたことを申し上げて挨拶といたします。

（2020年7月16日 東海キリスト者災害ネット代表・松浦 剛）